

時代の変化・田舎でも臨床はおもしろい！

小出由紀子[†]（小出動物病院副院長・岡山県獣医師会会員）

私は平成元年に夫の出生地である岡山県の片田舎で夫と二人で開業した。気がつけば早24年である。都会は足早に変化するが、田舎は変わらない、それどころかますます過疎化が進行中である。我々が開業するときに、当時の地元の開業部会長が「あんな所で獣医師は二人もいらんだろう。一人は公務員になった方がよいのでは…」と心から心配して下さった。当地は四方を山に囲まれた小さな平野で、当院へ来るには「国道486号線をず～っと下り、町並み、家並みがどんどんなくなり、エッ！道を間違えたかな…？と思ったらもうすぐだよ！」と教えて下さった先生がおられたとか。都会暮らしの人には想像がつかないかもしれないが、最も近いコンビニでも4km先にあり、車がなければどこにも行く気がしない。都会と違って不便なこともあるが、毎春、何処にいるのか鶯の声を耳にでき、夏は当院の前の河川で鮎が泳ぎ、秋は山々の紅葉が目にしみるくらい美しく、冬は雪は降らず空気が澄んでいる。わずかに離れた夫の実家の畑に行けば、季節の野菜や穀物がすぐに手に入る。それに今では家にいながらネット通販で何でもすぐに購入できるし、インターネットで最新の情報をどこにいてもすぐに入手できる。住めば都とはよくいったもので、田舎暮らしが長くなると、むしろ都会の人混みは疲れてしまう。

動物に対する価値観、思いは人それぞれである。この点において地域性は無視できない。動物愛護法の意識が高まっている今日においても都会と地方、まして当地のような田舎での飼い主の意識には大きなギャップがある。都会の飼い主は動物のわずかな変化も見落とさず、異常があればすぐに来院することが多いと思われるが、田舎の飼い主は結構のんびりしている。食事を食べなくなっても明日は食べるだろうと思いながら何日か様子を見守ってから、食欲廃絶・沈うつ状態となりはじめて来院することが今でも多い。このため来院時の病状はしばしば深刻である。開業当初は重症であることを告げると治療を諦める飼い主も多かった。しかし、最近では早期に連れて来なかったにも関わらず、いざ病状の深刻さを説明すると、治療費が高額となっても積極的な治療を求める飼い主も多く、時代の変化を感じる。

そして、こんな田舎でも要望があれば都会と同じよう

な高度医療が受けられるようにしたいという信念で夫は、日々努力しているようだ。幸い優秀なスタッフにも恵まれ、多くの方々の支援をいただきながら、二次診療も行える地域の中核病院に成長し、昨年には動物臨床医学研究所グループとして農林水産大臣により小動物臨床研修診療施設として認定された。昔なら「X線検査できますか？」という電話から今は「CTやMRI検査できますか？」というように大きく変わった。

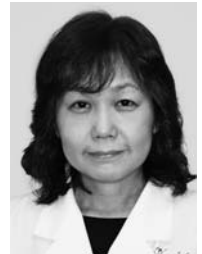
話は変わるが、私が獣医師になり立ての頃は女性獣医師に対する評価も様々であった。獣医師に限らず、女性にとって家庭をもつと家事と仕事の両立は結構大変で、さらに子供ができれば育児も加わることになる。今年、二人目の子供も大学に進学し、子育て一段落といったところであるが、開業当初からの家事と仕事の両立はやはり大変であった。その上、開業当初は私が受け付けに出ると「ちょっと、奥さん。」とよくいわれたものである。さらに診察に出ると猟犬や年配の飼い主には露骨に嫌な顔もされた。しかし、今は違う。年配の飼い主でもきちんと話を聞いてもらえる。こちらがそれなりに年を取り、経験も積み貫禄？もついたのかもしれないが、飼い主の意識や質も変化したように思う。私と同期あるいはそれ以上の年代では女性獣医師は少なかったが、最近では学会会場でも若い女性獣医師を多く見かけるようになった。しかも、私達の時代と異なり、スタイリッシュで美人が多く、これも時代の変化を感じるころである。

当院で今も昔も変わらないのは、重症例が多いこともあり、1件の診察時間が長いことである。開業したばかり

小出由紀子

—略歴—

- 1984年 鳥取大学農学部獣医学科卒業
- 1986年 同大学院修了
- 同年 山根動物病院（鳥取県倉吉市）勤務
- 1989年 岡山県にて小出動物病院開業（副院長）



[†] 連絡責任者：小出由紀子（小出動物病院）

〒714-1211 小田郡矢掛町東三成1236-7

☎0866-83-1323 FAX 0866-83-1332

E-mail : yukiko@ikasa-amc.com

りの頃は、一次診療においても治療に入るまでに時間を要した。それは金銭的な問題と獣医療に対する価値観からであった。今でもやはり治療に至るまでに、時間を要するが、それは病態の説明と治療に関するインフォームドコンセントに十分時間をかけているためである。また二次診療を希望する半数以上の飼い主は県外からの来院で、夫を頼って遠いところから何時間もかけて来られる姿には頭が下がる。当然、二次診療の診察や検査にも時間を要し、結局のところ、一次診療でも二次診療でも、1件にかかる時間は長く、数多くの診療はできない。私は病院内で、一次診療全般と二次診療の初診を担当しているが、じっくりと1例1例に向き合うことができ、精密検査を行う前に、これまで見落とされていた疾患を次々みつけた時などは、臨床の奥は深いと感じる。飼い主に感謝されることも多く、やはり臨床は楽しく感じる。最近の獣医学生は都会志向で田舎の病院は敬遠される傾向にある。是非ともこのような環境での実習や研修にも興味をもっていただきたいと願うところである。

ところで、私は鳥取県倉吉市の山根動物病院（現：

倉吉動物医療センター）で3年間の研修を終えた後も、今日まで24年の間、毎月1回鳥取県倉吉市で開催される合同カンファレンス（現在：知の市場）には片道2時間かけて参加している。この先もできる限り参加するつもりである。昔と違い、今は多くの獣医学関係の教科書や雑誌が発刊され、自宅や病院にいながらでも勉強はできるかもしれない。しかしながら、月に1度、同じ志の先生方とコミュニケーションを持つことのできる勉強会は私にとって、大変貴重な時間である。学会参加と同様、他の獣医師の話・症例報告等を生で聞くことで新たな発見をしたり、何よりもよい刺激を受けることができる。このような形でモチベーションを維持できるのも尊敬できる師と人々に恵まれたおかげであり、私にとっての一番の財産であると感謝している。これからもできる限り多くの人と動物に出会いたい。そして時代の変化に対応しながら日々進化し、臨床を続けたいと思っている。

最後に晴れの国、岡山の空のしたから、東北大震災に関係する全ての人々と未だ被災地に残された動物達の問題が一日でも早くよい方向に進むことを祈っている。